



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月31日

上場会社名 株式会社 エイジア

上場取引所 東

コード番号 2352 URL <http://www.azia.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美濃 和男

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 中西 康治

TEL 03-6672-6788

四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	723	—	161	—	160	—	94	—
25年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 100百万円 (—%) 25年3月期第3四半期 —百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	50.83	47.60
25年3月期第3四半期	—	—

(注) 平成26年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成25年3月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	990	830	79.2	421.07
25年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 783百万円 25年3月期 —百万円

(注) 平成26年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成25年3月期の数値については記載していません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	7.50	7.50
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	940	—	173	—	171	—	100	—	53.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

平成26年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載していません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(注) 特定子会社の異動には該当していませんが、株式会社FUCAを当第3四半期連結会計期間から連結の範囲に含めております。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期3Q	2,326,200 株	25年3月期	2,326,200 株
26年3月期3Q	464,600 株	25年3月期	466,800 株
26年3月期3Q	1,860,974 株	25年3月期3Q	1,783,940 株

- ② 期末自己株式数

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、平成26年3月期第3四半期より連結決算を開始しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、当第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期等との比較分析は行っておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当社は、平成25年10月1日付で株式会社FUCAを子会社化したことに伴い、当第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）におけるわが国の経済は、中国をはじめとした新興国経済の成長鈍化や欧州経済の停滞など不安要素はあるものの、政府の経済政策や日本銀行の金融政策を背景とした過度な円高の是正や株高の動きを受け、景気や先行きの見通しに改善の動きがみられます。

当社グループが属する情報サービス産業におきましても、IT投資を抑制する企業は依然として多いものの、積極的な設備投資姿勢に転換する企業も増えてきました。

このような状況の下、当社グループは、“メールアプリケーションソフトのエイジア”から、“eコマースの売上UPソリューション（アプリケーションソフトと関連サービスの組み合わせたもの）”を世界に提供するエイジアへ事業領域を拡大し、売上・利益の増大を図るべく、当連結会計年度は、以下の施策に重点的に取り組んでおります。

①クラウドサービス（ASP・SaaS）※1の強化

事業領域の拡大に伴い発生するリスクに耐えうる収益力を確保するため、アプリケーション事業において、利益率と売上継続性の高いクラウドサービスの販売増強に、引き続き注力しています。

中でも、個別カスタマイズにも対応する大型クラウドサービスであるSaaS型は、当社グループオリジナルのサービスであり、販売単価が高く、高い利益率を維持しており、当連結会計年度も重点的に販売推進しています。

②新製品・サービス開発の推進

比較的大型の新製品・サービスを当連結会計年度中に2つ以上発売することを目標に、開発を進めています。

③研究開発能力の増強

新製品・サービスの開発力をより一層強化し、当社グループの中長期的な成長力を高めるため、現状2ラインから成る研究開発体制のライン増強に取り組んでおります。

これらの取り組みの結果、当第3四半期連結累計期間においては、売上高723,414千円、営業利益161,052千円、経常利益160,901千円、四半期純利益94,602千円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①アプリケーション事業

主力のメールアプリケーションソフトの分野においては、利益率や売上継続性の高いクラウドサービスの販売強化に努めました。

一方、景況感や設備投資意欲の回復などに伴い、大型案件の引き合いが増え、その受注活動にも注力しております。

6月には、スマートフォン向けフォームデザイン最適化ツール「SF0 for WEBCAS」を発売し、順調に引き合いを伸ばしています。12月には、比較的大型の新製品・サービスである通知メール販促システム「WEBCAS marketing receipt」を発売しました。また、同じく12月、楽天株式会社に当社グループのEC運営企業へのメール配信システム「WEBCAS e-mail」の豊富な導入実績が評価され、同社より「楽天あんしん支払いサービス※2かんたん登録オプション※3」パートナー制度の導入サポート企業として正式に認定されました。

②サービスソリューション事業

アプリケーション事業の拡大に資する受託開発案件及びその保守業務、デザイン、eコマースサイト構築業務、マーケティングコンサルティング、メールコンテンツ提供サービスを中心に展開しております。前事業年度に提供を開始したマーケティングコンサルティング、メールコンテンツ提供サービスは、まだ金額は少ないものの順調に拡大しています。

10月には、デザイン、マーケティングコンサルティング、メールコンテンツ提供サービスをより一層強化するため、Webサイト及びメールマガジンの戦略立案・企画・制作・分析サービスを提供する株式会社FUCAの株式を取得し、子会社化いたしました。同社の売上は、次表「セグメント別売上高及び売上高総利益率」において、大部分は「サービスソリューション事業」、一部が「その他」に含まれます。

セグメント別売上高及び売上高総利益率

		平成26年3月期 第3四半期連結累計期間	
		金額・利益率	構成比
アプリケーション事業	売上高(千円)	645,830	89.3%
	売上高総利益率	72.9%	—
サービスソリューション事業	売上高(千円)	75,557	10.4%
	売上高総利益率	21.1%	—
その他	売上高(千円)	2,026	0.3%
	売上高総利益率	17.2%	—
合計	売上高(千円)	723,414	100.0%
	売上高総利益率	67.4%	—

※1 クラウドサービス(ASP・SaaS)

ソフトウェア提供者(この場合、当社グループ)が管理するサーバー上で稼動しているソフトウェアを、ユーザー企業がインターネット経由でサービスとして利用する形態。ユーザー企業は、サーバー・ソフトウェアの管理やライセンス費用の負担なく、毎月の使用料を支払うことで、比較的安価な利用が可能となる。

※2 楽天あんしん支払いサービス

楽天株式会社が平成20年10月から提供している「あんしん」「簡単」「お得」なID型決済サービス。楽天グループ以外のウェブサイトでも楽天会員IDとパスワードを用いることで、クレジットカード情報などの決済情報を登録することなく支払いができ、楽天スーパーポイントを貯めたり利用したりできる。ECサイトから映画チケット予約サイト、宅配注文サイト、動画ストーリーミングサイトなど、1,100サイトを超える(平成25年12月現在)さまざまなウェブサービスが導入。

※3 楽天あんしん支払いサービス かんたん登録オプション

楽天株式会社が平成25年10月から提供を開始した「楽天あんしん支払いサービス」のオプションサービス。楽天グループ以外のウェブサイトで会員登録する際、楽天会員IDとパスワードを用いることで、名前や住所などの会員情報が自動入力される。本オプションを加えることで、ユーザーは会員登録からログイン、決済までを一気通貫して「かんたん」に行うことが可能。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、990,141千円となりました。

流動資産は、826,423千円となりました。主な内訳は、現金及び預金655,422千円、受取手形及び売掛金133,161千円であります。

固定資産は、163,717千円となりました。主な内訳は、有形固定資産29,088千円、無形固定資産37,158千円、投資その他の資産97,470千円であります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、159,705千円となりました。

流動負債は、137,098千円となりました。主な内訳は、未払法人税等13,899千円、その他104,634千円であります。

固定負債は、22,607千円となりました。主な内訳は、資産除去債務7,906千円、長期借入金6,941千円、繰延税金負債6,563千円であります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、830,435千円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物残高(以下、「資金」という)は、455,422千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な発生要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、19,668千円となりました。主な資金増加要因は、税金等調整前四半期純利益160,891千円によるものであり、主な資金減少要因は、法人税等の支払額116,589千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において投資活動の結果支払われた資金は、38,148千円となりました。主な資金減少要因は、無形固定資産の取得による支出18,765千円、有形固定資産の取得による支出16,630千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において財務活動の結果支払われた資金は、13,526千円となりました。主な資金減少要因は、配当金の支払額13,598千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本日、「連結業績予想の開示に関するお知らせ」を公表いたしました。連結決算の開始に伴い、当連結会計年度の通期連結業績予想を開示しております。連結での通期売上高は940百万円、営業利益は173百万円、経常利益は171百万円、当期純利益は100百万円と予想しております。エイジア個別での当第3四半期累計期間の業績は、売上高は700百万円、営業利益は157百万円、経常利益は158百万円、当期純利益は93百万円と、おおむね順調に推移いたしましたが、第4四半期の案件には不確定な要素が含まれることから、エイジア個別の通期業績予想(売上高:900百万円、営業利益・経常利益:170百万円、当期純利益:100百万円)を据え置いております。今後の業績推移に応じて修正が必要と判断した場合は、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第3四半期連結会計期間において、株式会社FUCAの株式74.8%を取得し子会社化したことに伴い、当第3四半期連結会計期間から同社を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
 (平成25年12月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	655,422
受取手形及び売掛金	133,161
仕掛品	2,877
繰延税金資産	4,457
その他	30,529
貸倒引当金	△24
流動資産合計	826,423
固定資産	
有形固定資産	29,088
無形固定資産	
のれん	11,723
その他	25,434
無形固定資産合計	37,158
投資その他の資産	
投資有価証券	76,546
その他	20,924
投資その他の資産合計	97,470
固定資産合計	163,717
資産合計	990,141
負債の部	
流動負債	
買掛金	6,898
1年内返済予定の長期借入金	3,528
未払法人税等	13,899
賞与引当金	8,138
その他	104,634
流動負債合計	137,098
固定負債	
長期借入金	6,941
長期前受収益	1,028
繰延税金負債	6,563
資産除去債務	7,906
その他	168
固定負債合計	22,607
負債合計	159,705

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
(平成25年12月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	322,420
資本剰余金	252,770
利益剰余金	269,791
自己株式	△76,272
株主資本合計	768,709
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	15,149
その他の包括利益累計額合計	15,149
新株予約権	41,456
少数株主持分	5,119
純資産合計	830,435
負債純資産合計	990,141

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	723,414
売上原価	236,169
売上総利益	487,245
販売費及び一般管理費	326,192
営業利益	161,052
営業外収益	
受取利息	159
受取配当金	360
受取手数料	157
未払配当金除斥益	261
その他	244
営業外収益合計	1,183
営業外費用	
支払利息	51
為替差損	168
持分法による投資損失	1,094
その他	21
営業外費用合計	1,335
経常利益	160,901
特別損失	
固定資産除却損	9
特別損失合計	9
税金等調整前四半期純利益	160,891
法人税、住民税及び事業税	51,646
法人税等調整額	13,808
法人税等合計	65,455
少数株主損益調整前四半期純利益	95,436
少数株主利益	834
四半期純利益	94,602

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	95,436
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	4,740
その他の包括利益合計	4,740
四半期包括利益	100,176
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	99,342
少数株主に係る四半期包括利益	834

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間
 (自 平成25年4月1日
 至 平成25年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	160,891
減価償却費	10,031
のれん償却額	617
株式報酬費用	6,471
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4
賞与引当金の増減額(△は減少)	△20,634
受取利息及び受取配当金	△519
支払利息	51
為替差損益(△は益)	100
持分法による投資損益(△は益)	1,094
有形固定資産除却損	9
売上債権の増減額(△は増加)	△26,518
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,671
仕入債務の増減額(△は減少)	2,645
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△9,296
その他の固定資産の増減額(△は増加)	446
その他の流動負債の増減額(△は減少)	8,926
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△231
その他	28
小計	135,789
利息及び配当金の受取額	519
利息の支払額	△51
法人税等の支払額	△116,589
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,668
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△16,630
無形固定資産の取得による支出	△18,765
投資有価証券の取得による支出	△1,962
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,173
その他	384
投資活動によるキャッシュ・フロー	△38,148
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△707
自己株式の処分による収入	779
配当金の支払額	△13,598
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,526
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△32,005
現金及び現金同等物の期首残高	487,428
現金及び現金同等物の四半期末残高	455,422

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。